

本事例集における各教科の「課題発見・解決学習」の考え方

1 「課題発見・解決学習」の推進

「課題発見・解決学習」とは、児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習であり、広島県では、学習者基点の能動的な深い学びである「主体的な学び」を促す教育活動の一つとしてその推進を図っています。

2 「課題発見」の考え方

本事例集においては、「課題発見」を次のように捉えることとします。

教師の意図的な働きかけを通して、生徒が目標に迫る問いを立てること。

「課題発見」では、次の3点がポイントになると考えます。

- ・生徒の既有知識や体験等を把握した上で、教科及び単元の本質に即した目標を設定して、十分な教材研究を行うこと。
- ・教師の意図的な働きかけとして、生徒のこれまでの考えとの「ずれ」や「隔たり」、学習対象への「あこがれ」や「可能性」を感じさせる工夫をし、生徒から願いや気づきが生まれる場を設定するとともに、その願いや気づきをもとに目標に迫る問いを見いだす過程で、発問や応答といった教師と生徒、あるいは生徒同士のやりとりを行うこと。
- ・生徒に、解決すべき問いとして明確に表現させること。

たとえ厳選した教材を示したとしても、生徒からは様々な願いや気づきが出てくることが考えられます。したがって、生徒が目標に迫る問いを見いだすためには、新たな資料を提示し比較させ、問題の本質を問うたり、自分の考えの理由を問うたりするなどの発問を行い、そこから生じる教師と生徒、あるいは生徒同士のやりとりを行うことが必要となります。このように生徒が目標に迫る問いを見いだしていく過程を本事例集において「課題の練り上げ」と呼ぶこととします。

3 「課題解決」の考え方

生徒が発見した課題の解決に向け、生徒が足りない情報を収集し、その情報を整理・分析したり、まとめ・創造・表現や実行（試行）したりして、課題に対する考えを導くことを本事例集において「課題解決」と捉えることとします。なお、「振り返り」において、単元の学習内容について分かったといった、学習の結果だけではなく、当該教科の見方・考え方が豊かになったと実感したり、探究の仕方について振り返ったりする「振り返り」の充実が重要です。